

## 竜南中みまもり隊（熊本県）

皆様、こんにちは。昨年度竜南中 PTA 会長を務めさせていただき、今年度、3 日前の総会で清水校区防犯協会長にならせていただきました、みまもり推進委員会委員長の小池洋恵と申します。パソコン操作は竜南中みまもり隊隊長で防犯推進委員・現竜南中 PTA 会長の山城裕慈さんです。よろしくお願い致します。本日は、私達が行っております「竜南中みまもり隊」の活動等についてお話をさせていただきます。始めに竜南中地区懇談会で、竜南中みまもり隊の発足式を行い、それが民放の番組で取り上げられましたので、まず、その時の TV 映像をご覧ください。



### 活動地域の紹介



私たちが住む清水校区は豊かな自然に囲まれ歴史が多く語り継がれる町で、また湧水の地でもあります。そして設立 125 年以上になる伝統深い清水小学校があり、約 700 名の生徒が通っています。人口が1万 2,000 人強で 5,500 世帯、65 歳以上と 15 歳以下が4割で、残り6割が働き盛りの人が住む校区です。

また、みまもり隊が所属する竜南中学校は設立 65 年、現在 400 名の生徒が通っており、殆どの生徒が清水小学校出身です。地図上で見ますと、清水校区は東に立

田山自然公園、北に自衛隊、西は八景水谷公園と坪井遊水池があり、自然に囲まれた素晴らしい環境に位置しています。竜南中の生徒は、この清水校区から黒髪校区へ向かって毎日 350 名以上の生徒が登校しています。竜南中の近隣には、中学校1校、高校3校そして熊本大学もあり、若者が集まる文教地域でもあります。反面、若者を狙った犯罪等が多い地域でもあります。

さらに、住宅地などの造成が進み、①地域に関係のない車両の通過が増える傾向がある。②大学周辺に多発する犯罪が清水地域まで拡大している。③八景水谷公園、坪井遊水池が不良行為等少年の溜まり場になりつつあり、立田自然公園が逃げ道になりやすい。④地図にも描けない迷路と網の目の様な道が沢山ある。等の問題も抱えています。

また、最近では新しい住民が増えているため、住民の伝統的な祭りへの関心も薄れ、地域への帰属意識の衰退が起こり始めており、犯罪が起こりやすい環境になってきました。



### 青パト防犯リレー隊の発足

平成 16 年に「熊本市安心安全まちづくり条例」の施行がきっかけとなり、校区では子どもを犯罪から

守ろうとする機運が高まり、校区防犯協会・交通安全協会・学校・PTA が互いの活動の連携を図り、防犯活動が盛んになり始めました。校区防犯協会が力を入れている方針としては2つあり、それは、①地域の特性にあった活動を推進していく(校区内に7町内 14 地区あり、地域の地形や道路網に即したパトロールをする)。②防犯、防災活動の可視化を進め、いつでも、どこでも『守っている、守られている』環境をつくるということです。



さらに、団体、町内間の活動の連携を強化するため青パトを導入し、町内間をリレーしてパトロールする『青パト防犯リレー隊』を発足しました。その結果、清水校区を取り巻く犯罪情勢は、熊本県警がインターネットで公表している犯罪マップでみると2007-2008年は道路に沿って多くの事案が発生していましたが、2010年7月-2011年7月には減少しています。



しかし、昨年2件の大きな出来事が起こり、今までの校区内での防犯、防災を軸とした活動の限界を感じさせられました。一つは平成 23 年3月3日校区内で発生した幼児殺害事件です。ひな祭りの日に起きた事件は、被害者も加害者も校区の子どもであったという辛い事件でした。身近な子どもたちが大きな犯罪に直接関係したことで、町全体が悲しみで覆われました。



その事件は、校区の方が毎日買い物に行く隣の小学校区にある大型店舗で、ごくごく当たり前の日常の中で起こりました。犯行時、加害者が6時間も店内のトイレ付近をうろついていたようですが、もし誰かが声掛けさえしていたら事件を未然に防ぐ事が出来たかもしれません。結果的に私たちは自分たちの力で助けることも出来ず、警察の力にもなれなかったことに無念さを感じました。

私たちが目指す「防犯の基盤」とは住民同士のリアルタイムな情報共有と連携ととらえており、これが機能し信頼され、しっかりした防犯ボランティア組織であるためには、日頃から警察、学校、防犯や交通など地域団体の他、企業や店舗と情報交換しておく



必要があると痛感しました。

2つ目の出来事は、3月11日の東日本大震災です。その被害状況が報道される中、1枚の写真が目にとまり、それがきっかけで被災地東北三陸へ保護者の代表として、この目と耳で確かめなければいけないと被災地取材を決断しました。現地は、白いヘルメットや赤いランドセルなどが散乱しており、子どもたちが背負っていたものと思うと涙が溢れて止まりませんでした。この現実を正面から捉え、次世代を担う子どもたちへの大切な教材としなければいけないと思い、津波避難所となった河南中学校取材を敢行しました。また、被災地では私達の目的を深く理解していただき、岩手県復興局の方が同行して取材に協力していただきました。世界的に有名な強固な2重の堤防で囲まれた田老町と山田町、町全体が焼けた大槌町、そして宮古市内などの取材も行いました。山を超え眼下に街が見えてきた時の衝撃は今でも忘れられません。悲惨な光景の連続で、土台だけ残る跡地には子ども部屋と思われる場所に文房具やおもちゃなどが土からむき出した状態で、遊んでいた子どもの姿が思い浮かび、ずっと涙が溢れ出て言葉を失ってしまいました。



## 子どもの身を守る、守らせる



竜南中と同規模の宮古市河南中学校の訪問取材では、休日にも関わらず、校長と副校長先生が対応していただきました。避難所になった当時の様子を「記録をとっておけば良かったが、そんな意識もなく何をしたのかさえ覚えていない。それほど必死に不眠不休でやってきた。」と心中赤裸々に話してくださいました。河南中は 300 名の生徒が通う学校で、地震直後に 300 名の地域住民が避難所に集まり、電気・水・食料・毛布もなく、寒さの中で 1ヶ月を過ごし、しかも 10 日間は全く情報がなく、自分の

家族の安否さえも分からない状態での生活だったそうです。「10日後、私の携帯に保留されていたメールを見ると、私の家族から『生きていますか？』の安否確認の内容があり、その文字を見たときは、言葉に表せない気持ちでした。」と校長先生が涙ぐんで話されました。被災者には、土地勘がない人(引っ越してきたばかりの人など)がいて、安全な場所から危険な場所に移動し、被災された人もおられ、自分たちは引き留めることが出来なかったことを後悔しておられました。予期せぬ災害、犯罪から自分の身を守るためには、「いつでも助かる場所、逃げる場所、避難できる場所を把握しておく必要がある。」と改めて強く考えさせられました。

## 子どもには、校区内校区間の土地勘を



東日本大震災は地震から津波そして火災へと被害状況が変化するという大惨事でしたが、例えどんな災害であっても土地勘がなければ助からない。建物を目印にしても、災害時は崩壊し煙に巻かれ、一歩先がどの方向かさえ分からなくなると言うことを知っておく必要があります。しかも孤立した状況の中でどう判断するかで生死が分かります。だからこそ、その時その場所で避難情報(場所・災害情報・救援情報)をいつでも、どこでも獲得できる仕組みが必要だと思いました。次世代を担う子供たちには「一人でも生き抜く」「どこへ逃げ、どうやって生き延びるか」という防災・防犯への一人一人の危機意識を高める教育と学習の場を設けることが急務だと感じました。

以上のことから、子どもを多面的に守るためには、パトロール主体の PTA 活動だけでなく、それを地域と情報共有し、連携する組織が必要であると考えました。そのことから中学校 PTA で構成する「竜南中みまもり隊」と地域との連携や企画、教育など間接的な活動をする「みまもり推進委員会」の2つの組織を立ち上げることになったのです。

## 組織(竜南中みまもり隊とみまもり推進委員会)

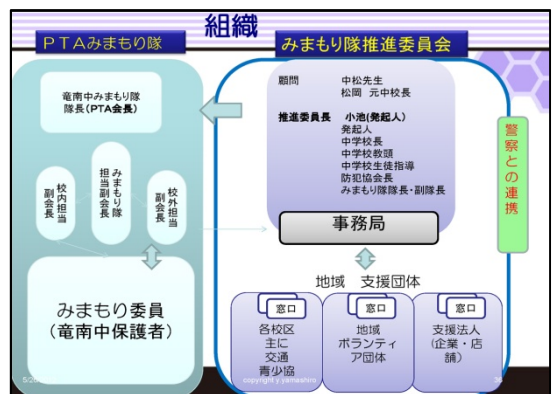
以上のことから、子どもを多面的に守るためには、パトロール主体の PTA 活動だけでなく、それを地域と情報共有し、連携する組織が必要であると考えました。そのことから中学校 PTA で構成する「竜南中みまもり隊」と地域との連携や企画、教育など間接的な活動をする「みまもり推進委員会」の2つの組織を立ち上げることになったのです。



## 地区懇談会での竜南中みまもり隊発足

昨年度の竜南中・清水小合同地区懇談会で「安心、安全まちづくり」をテーマに周辺5校区に呼び掛け、各校区の防犯、防災活動の事例を紹介して情報の共有の必要性等を小学校5校区の自治会、防犯協会等の団体長 300 名に訴えるために地区懇談会の中で東北被災地取材発表とみまもり隊の発足式を行いました。

竜南中みまもり隊では、登下校時の犯罪、災害に巻き込まれた時を想定して、防犯活動を校区間に拡げ、各校区の防犯協会との情報・活動連携を広域で図る計画です。このことは、校区間広域防犯、防災活動団体としてメディアでも注目され、ニュースだけでなくTV番組で、①みまもり推進委員会を設置。②地域防犯活動の高齢化防止、防犯意識向上。③情報と人的活動の地域間連携、団体間連携。④情報管理とその





システム化。などについて取り上げられました。

竜南中みまもり隊は PTA 活動の一つとして組織し、毎年、必ず保護者が 50 名ほど参加・登録し防犯活動を経験することで、卒業後も防犯関係のボランティアに参加が期待されます。主な活動はパトロール（定期、不定期、イベント毎）、朝の挨拶運動、校舎・校地修理活動（割れ窓論解消）を行います。

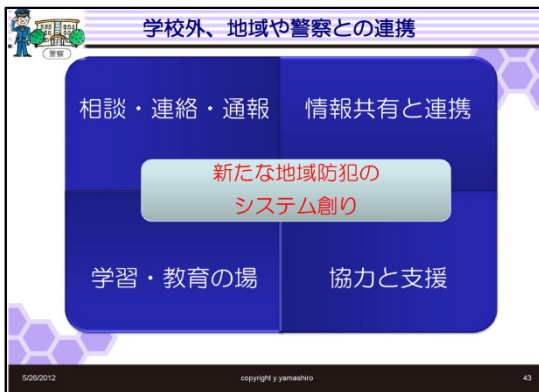
今年度のみまもり隊はこのように 10 番隊まで組織され、計 80 名の隊員が登録されています。定期パトロール以外に学校と連携したパトロールを行い、地域の祭り、私・公立受験日及び卒業式など子どもが非行に走りやすい時期にはパトロールを強化しています。

H24年度 みまもり隊 竜南中PTA	
平成24年度80名：PTAみまもり隊	
一番隊	5名（坪井6丁目、樽田町）
二番隊	8名（妙体寺町、東子飼町、坪井5丁目、黒髪1丁目、南坪井町）
三番隊	4名（室園町）
四番隊	6名（清水万石1丁目、清水万石2丁目、清水万石3丁目）
五番隊	7名（清水万石4丁目）
六番隊	9名（鬼谷、清水万石5丁目）
七番隊	9名（清水本町）
八番隊	5名（清水東町、清水岩）
九番隊	5名（清水亀井町1～25）
十番隊	10名（清水亀井町26）
その他	12名
推進委員会他団体等	

また、地域婦人団体もパトロールに参加してもらい、パトロールの輪が広がっています。割れ窓論の解消として学校環境の調査を行い、校地・校舎の改修や美化運動を進めています。保護者と生徒が学校を修理することで親子のふれあいの場をつくり、非行防止へ向けた活動を行っています。一方、みまもり推進委員会は事務局を設置し、警察との連携を軸に、地域団体や小中高、大学、企業や店舗と連携し、防犯防災の学習の場や非行防止のカウンセリング機能強化を推進していきます。

推進委員会は、学校長、みまもり隊長 OB、外部有識者を含めた組織で構成され、みまもり活動全体の運営企画、他校区 PTA や他団体との情報共有、地域、警察との連携を図り「①相談連絡通報 ②情報共有と連携 ③学習教育の場 ④協力と支援」を活動の基本としています。

## 竜南中みまもり隊と警察の連携によって



竜南中みまもり隊を立ち上げ、警察（熊本県警・北署）との連携によって、次のような意見が寄せられました。① 平時に気軽に交番へ立ち寄れるようになり、情報交換が出来るようになりました。②警察支援で竜南中みまもり隊と地域団体・小中 PTA の連携が出来るようになりました。③PTA 内での通報や情報共有など防犯意識が非常に高まってきました。

## 犯罪者をつくらない防犯、みんなの防犯活動へ

竜南中みまもり隊の仕組みは、毎年 50～100 名近い若い保護者が、同隊に所属し、卒業していきます。そして、その親の姿をみて子どもは育ち、永続的に犯罪者をつくらない環境をつくるのが私たちの目標です。今後、防犯ボランティアの経験をしてきた住民が町中に増えていけば、本当に「地域で地域を守る」ことが実現できると信じて進めています。中学校を核とした「熊本安心安全のまちづくり！」のシステムを地域のブランドとして育て抜けていきたいと思えます。そして、時間はかかっても、私達は「犯罪

者をつくらない防犯活動」を「まちづくり」としてとらえていきます。

なお、被災地訪問をさせていただいた宮古市河南中とは交流を続け、昨年11月小・中学校PTAで300kgのさつまいもを送りました。『「1,800km 離れた奇跡」今後も支援をお願いします。』と義援金を送ったときよりも感動の返事が届きました。12月には被災地河南中PTAから約450個のリンゴが送られてきました。全校舎に広がった新鮮なリンゴの甘い香りは、生徒と先生、保護者に感動を与え絆がさらに強くなりました。



## 質疑応答

### ●質問

活動地区内に大学があるということですが、その大学にボランティア組織はありますか。大学生は、子ども達が帰る時間帯にまだ学校にいることから、見守り活動に利用されてはいかがでしょうか。

### ○回答

大学に確認していないのでボランティア組織があるか分かりませんが、参考にさせていただきます。アドバイスありがとうございます。

### ●質問

竜南中みまもり隊では、校区と校区の狭間に着目した広域的な活動を展開されていますが、いまいし詳しくご説明をお願いしますか。

### ○回答

防犯協会という組織は、各小学校区単位で構成され、その単位内での活動になりますが、痴漢等の事件は校区の境でも発生します。また、違う小学校区にある中学校へ通学する者は、他の小学校区の犯罪情報等を知らないことから、犯罪に巻き込まれることもあると思います。そこで、活動する校区を中学校単位で考えたら、各小学校区との情報連携や見守り活動等も活動しやすく、さらに、情報を子ども達に知らせることも出来ます。